

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

E-mail アドレス：info@sunraworld.com FAX：03-3955-2122



原油 1 バレル 150 ドル！

私は年初から「今年原油は 100 ドルまで高騰する」と言ってきた。現在若干下げているがやがて 100 ドルまで回復し、2008 年に原油価格は 150 ドルをマークするだろう。

1998 年の超円安（147 円）の最中に「10 月上旬に円は 110 円になる」と私が予想して当てた際の最大の理由は、ヘッジファンドのキャリートレード動向をしっかりと掴んでいたからであった。今回の 9 月からの原油の急騰についても、私の 100 ドル予測の最大の理由は、MYMEX(ニューヨーク・マーカンタイル取引所)の原油先物市場の「取り組み」である。市場では中国やインドの実需逼迫などが原油高騰の理由とされているが、私はそうしたマクロ情報は目先の予測に採用しない。NYMEX での原油先物売買建玉は約 130 万枚（1 枚 1000 バレル）だが、オプションは 250 万枚になっている。この傾向は本年 9 月から続き、大量のコールオプション売ってきた投機筋は 80、90、95 ドルと権利行使価格に接近する度にヘッジ買いを迫られた。こうした真空地帯の環境下で、原油はまっしぐらに上昇し続けたのである。最近でも、私は 9 月 5 日のハワイでのセミナー、9 月 12 日の（経済）同友会、また 26 日の私的勉強会で原油価格年内 100 ドルを予告している。

皆様は、今後の原油価格がこのまま調整されるかどうか知りたいところと思うが、答えは「一時調整、以後高騰」。マクロ情報はボデーブローのようなもので、じわじわ効いてくる。価格押し上げ要因としては中国、インドの実需逼迫に加えてアメリカの石油精製能力不足、ヒーティングオイルの在庫不足などがある。米国経済は外需依存になり、特に新興国に期待がかかっているが、原油高はエネルギー効率の極度に悪い新興国を直撃するから、期待通りにはいかないだろう。となると、今までの投機マネーの商品市場シフトは維持されることになり、原油価格高の要因となる。

さらに地政学的要因もある。それは私が常日頃述べている中東情勢である。ブッシュ政権の中東和平政策の本音はイラン孤立化だから、2008 年 11 月の米大統領選までにイスラエルとイランとの緊張は極度に高まるだろう。ホームズ海峡の異変は原油価格を跳ね上げる要因である。マクロ情報のボデーブローは概ね以上であるが、さらにアッパーカットが隠されている。先に述べた NYMEX ではすでに 200 ドルのコール取引が成立し始めている。私が何を予測しても必ず「でたらめを言うな」とよく叱られるが、日本の国益のためには、来年末になって「申し訳ありませんでした」と私が謝ることになった方が良いでしょうが.....。

増田俊男の TV・ラジオ情報

- テレビ放映「増田俊男が斬る！～目からウロコの「時事直言」～」BSイレブンデジタルにて 12/15（土）放映開始（隔週）午前 9：30～9：55
- ラジオ放送「増田俊男の本日の目からウロコ」キーステーション：ラヂオもりおか 月～金 午前 8：18～8：30 インターネットからも毎日放送を聞くことができます。<http://www.radiomorioka.co.jp/>

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、

事前にサンラ・ワールド（株）増田俊男事務局（03-3955-2121）までお知らせ下さい。